

【 診療科:消化器外科 】
 【 レジメン登録番号:SG-81 】

〈 Panitumumab+m.FOLFOX6療法 〉

	投与量	投与経路	投与スケジュール(day)	
			1 14
ベクティビックス	6mg/ kg	div	○	
レボホリナート	200mg/m ²	div	○	
オキサリプラチン	85mg/m ²	div	○	
フルオロウラシル	400mg/m ²	全開div	○	
フルオロウラシル	2400mg/m ²	div	○	

【1コース期間: 14 日】 【総コース数: 制限なし】

【適応癌種: 大腸癌】

【時期: 術前、術後、手術不能・進行・再発】

【休薬・減量に関する要件】

項目	基準	減量内容	休薬時の再開基準

投与プロトコール

〈第1日目〉

Rp	薬剤名	投与経路(速度)
Rp.1	デキサート 9.9.mg	div(15分で)
	生理食塩水 100mL	
Rp.2	ベクティビックス 6mg/kg	div(60分で)
	生理食塩水 100mL	
(Rp.3(初回のみ))	生理食塩水 100mL	div(30分で)
Rp.3	5-HT ₃ R Blocker 1A	div(30分で)
	マグネゾール 1A	
	生理食塩水 100mL	
Rp.4	レボホリナート 200mg/m ²	div(2時間で)
	5%ブドウ糖液 250mL	
Rp.5	オキサリプラチン 85mg/m ²	側管div ^{※1} (2時間で)
	5%ブドウ糖液 250mL	
Rp.6	フルオロウラシル 400mg/m ²	div(10分以内で)
	5%ブドウ糖液 100mL	
Rp.7	生理食塩水 50mL	div(全開で)
Rp.8 ^{※2}	フルオロウラシル 2400mg/m ²	div(46時間で)
	生理食塩水(別紙希釈表により注入) ^{※3}	

【参考文献:NCCNガイドラインVersion2.2015 Colon Cancer, 大腸癌治療ガイドライン2014年版】

【備考:※1...オキサリプラチンとレボホリナートは同時投与。】

【備考:※2...Rp.8は携帯型ディスプレイ注ポンプ使用を原則とする。ポートがない場合は入院で施行する場合もある。入院の場合は、5-FU 2400mg/m² + 生理食塩水 500mL div(46時間で)でも可】

【備考:※3...生食希釈量は、携帯型ディスプレイ注ポンプの説明書を参照。】